第 56 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展　日本館　企画提案書

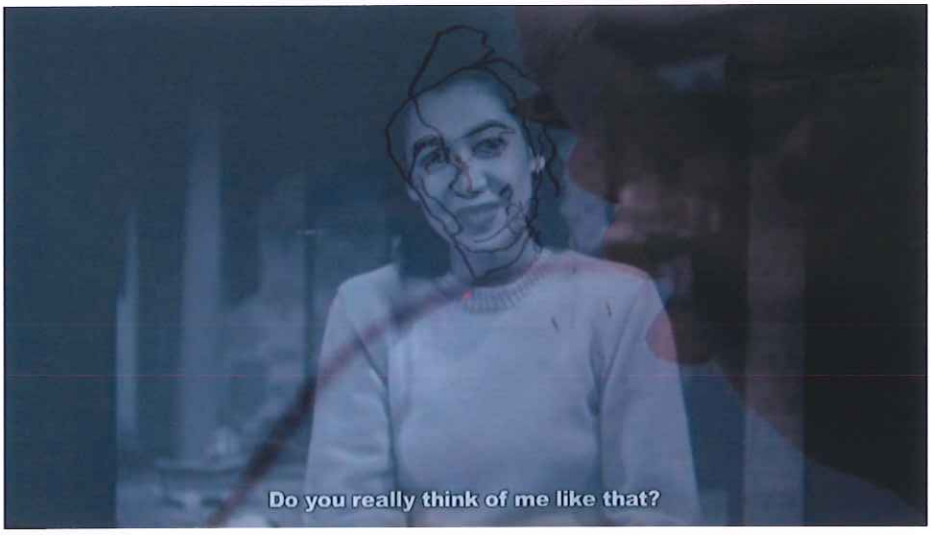
（参考図版）*Portrait of a Young Samurai,* 2009 | Courtesy of the artist

展示タイトル：「家族の肖像」（仮題）
作家名：小泉明郎
応募者氏名：飯田志保子（インディペンデント・キュレーター）

1.　基本構想（コンセプト）

2011 年の東日本大震災後、一時は国際的に共有されたかにみえたグローバルな危機感と連帯の意識は、被災地からの物理的・心理的な距離に応じて濃淡のグラデーションを帯び、3 年を経た現在では日本の政治、経済、外交問題等の行く末について、人々の間にさまざまな考えや信条の差を生み出している。諸外国からみた日本の姿もまた同様に揺れ動き、果たしてこの国がどこに向かうのか、漠然とした不安と疑念が拭えないのは国内外で通底している。

本提案では、展示が実施される2015年が震災から4年の歳月を経ていることを念頭に置き、震災そのものや2012、2013年の各展示には直接言及しないが、そこで提示された問題意識を継承し、戦争、自然災害、政治紛争、経済危機から数年後に看取される状況――経済復興重視や保守化に向かう傾向等――に対する不安感・違和感を、個人と集団の心理的な関係性から表出する。たとえば、近年指摘されている若者の右傾化や原発をはじめとする各種デモに対する考えの相違など、集団によって醸成される感情や集団的意思と個人の考えや信条の間には、ある固有の社会状況や時代の要請によって、説明のつかない心理的な齟齬が生まれることがある。本提案では、小泉明郎のヴィデオ作品によって、ひとりの人間の自己矛盾と、その延長線上にある、家族、コミュニティ、国家といった大きな集団が抱える自己矛盾をオーバーラップさせ、今日の日本が抱える複雑なグラデーションを浮き彫りにすることをねらいとする。



（参考図版） *autopsychobabble #2,* 25min, 2011 | Courtesy of the artist

【主題について】

本展示では「家族」をモチーフとする。家族は普遍的な主題であり、かつ個人と国家の間にある集団のうち、個人にとって最も近しい他人の集合体である。今回メインとなる

新作のヴィデオ・インスタレーションでは、さまざまな事情によって家族の一員の誰かを失ってしまった家族に焦点を当てる。モデルとなる家族は、小泉がインタヴューを複数実施したうえで2家族に絞り込み、タイプの異なる2種類の新作を制作予定。
新作のうちひとつは、信条を理解できずに離れてしまった身近な他者に対し、何か伝えたいことがある家族が順繰りその不在者の役を演じ、残された家族(＝自分自身)に対して一人ずつ語りかける。もうひとつは語り中心ではなく、小泉が用意した脚本を残された家族全員で演じてもらう。それによって集合体としての家族の肖像を描き出す。
本作の意図は、登場人物をぎりぎりまで追い込み、どうしても自分が受け入れられない考えを語れず、演技が破綻する瀬戸際に顕れる映像の虚構性や、自己矛盾、心理的葛藤を表出させることである。小泉が近作で参照している小津安二郎の映画においても見受けられるように、演者の主体性・身体性が映像の虚構性を凌駕することによって、家族の肖像を普遍的に表しながら、背景で埋め難い溝を作りだしている日本の社会があぶり出される。たとえば勘当した息子を演じきれない父の心情の背後には、世代の違いや日本社会の矛盾、複雑さが浮き彫りになる。喪失感を抱えた語りと、世代や性別を超えた役を無理に演じる滑稽さが入り混じり、エモーショナルでありながら笑いを誘う映像になる構想である。
また、関連する既存作の《お母さん》*Mum*(2003)も展示する。新作に通じる、家族、喪失、コミュニケーションをテーマにした映像で、小泉に特徴的な激しいパフォーマンス、ユーモア、不条理があり、日常から戦場へ、笑いから涙へと急展開するスリリングな作品である。戦争を背景にしていることから、国際的、普遍的な視点から新作を見てもらう導入としてもふさわしいと考える。

Mum, 2003, 7min | Courtesy of the artist

【展示プラン】(展示イメージ別添)
日本館内中央に段状のステージを造作し、その周囲にスクリーンを配して展示する。

鑑賞者はステージに上がり、腰を掛けて作品を見る。劇場性をもった空間構成にすることで、快適な鑑賞空間を作りつつ、非日常的な虚構性を演出する意図である。

1.《お母さん》*Mum*(2003, 7min.)
2.(新作1)2 面スクリーンによるヴィデオ・インスタレーション
3.(新作2)1-2 面スクリーンによるヴィデオ・インスタレーション

2. 出品作家の選定理由

1976 年群馬県に生まれ、国際基督教大学とチェルシー芸術デザイン大学(ロンドン)で学んだ小泉明郎は、ライクス・アカデミーのレジデンス(アムステルダム、2005-06)を経て帰国後、リバプール・ビエンナーレ(2010)、あいちトリエンナーレ 2010、ニューヨーク近代美術館プロジェクト・シリーズの個展(2013)を含む国内外の展覧会やビエンナーレに招待され、国際的に高い評価を得ている映像作家である。

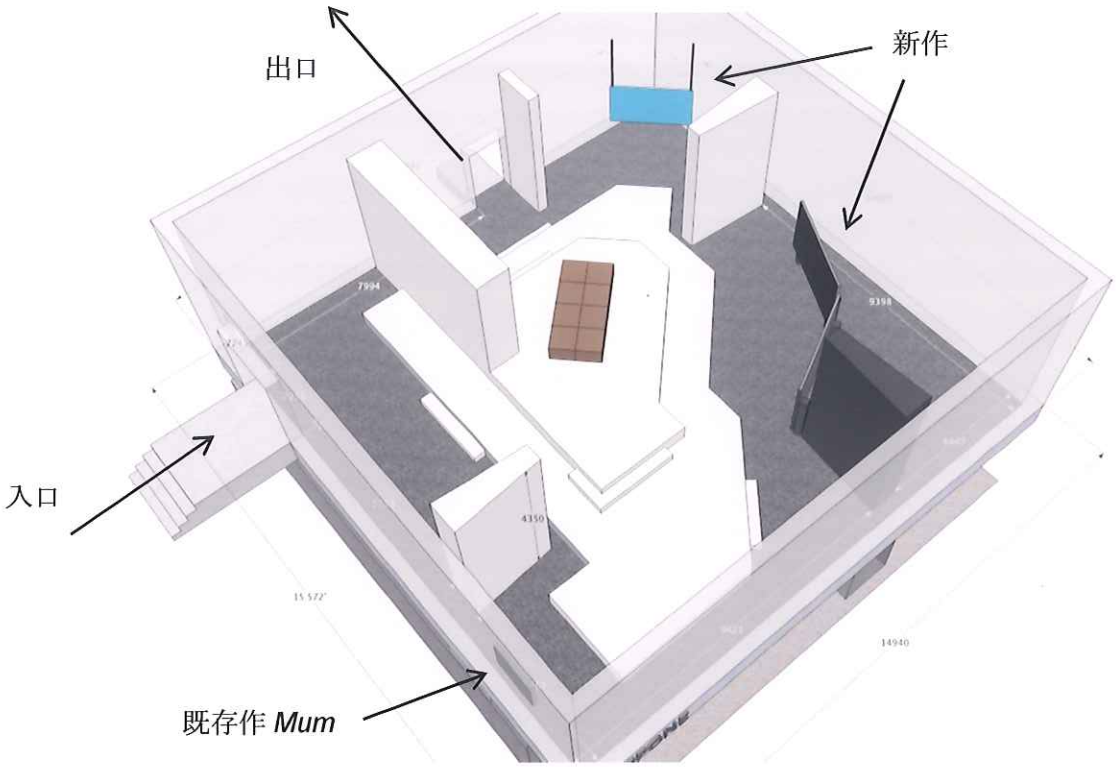
パフォーマンスをもとにした映像作品によって、コミュニケーションを介在した不条理劇や人間の心理的葛藤の表現に卓越した小泉は、近年、明治期以降のアジアと日本の関係、日本の戦後史、日本のナショナリズムのテーマに取り組んでいる。小泉は、ある時代に固有の状況を再読し、イデオロギーを登場人物に語らせたり、行為を反復・エスカレートさせたりすることによって、モデルと演者の間、または登場人物自身の内に心理的な葛藤や矛盾を生じさせ、見る者の感情を揺さぶる。日本とアジア諸国の関係について国際社会の懸念を招いている現在、明治期以降の日本が辿ってきた近現代史を批評的に省みるまなざしが求められている。「自分にとって日本とは何か?」と自問しながら、その答えを探求してきた小泉明郎は、時代の要請に応えながら、個人も国家も一枚岩でないことをアーティスティックに表現している作家であり、本構想にふさわしいと考え、選出した。また、精力的に新作に取り組みながら、毎回確実に優れた質を達成してきた小泉の安定した力と、周囲と仕事をするうえでの協調的な姿勢も、ヴェネチア・ビエンナーレという国際舞台で日本を代表する作家に求められる資質として重要視した。

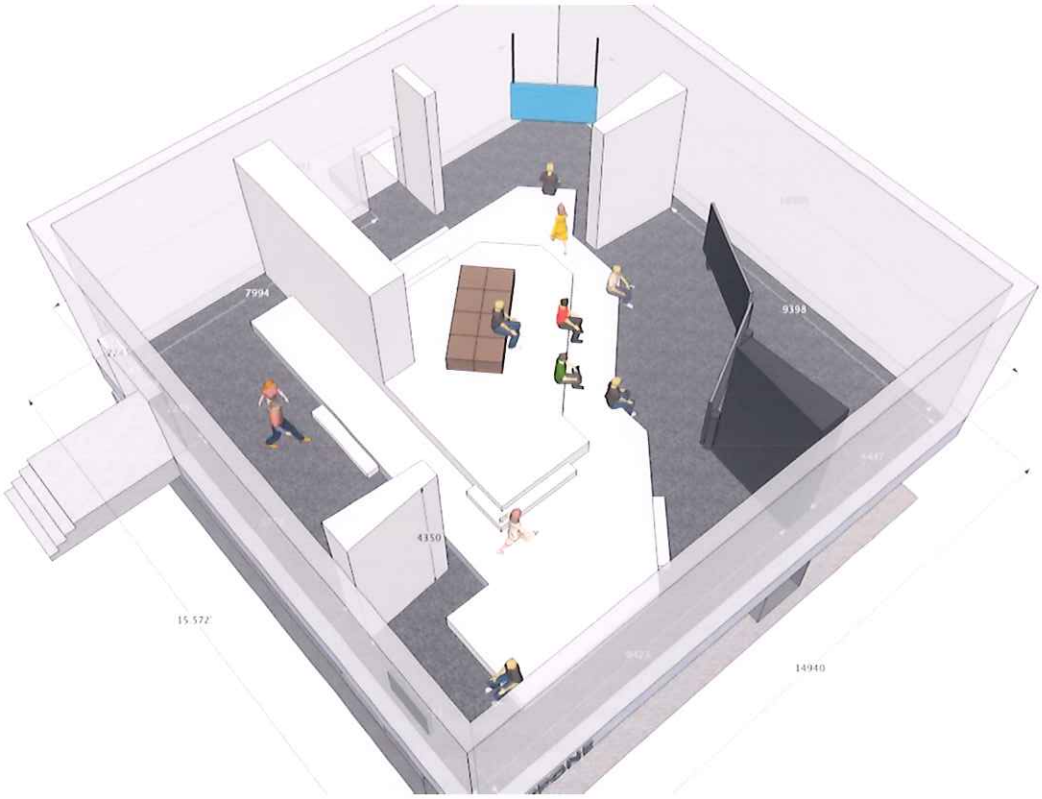
さらに 1952 年以来の日本館の歴史を鑑み、過去に選定されていなかったタイプの映像作家であることも考慮した。感情を激しく揺さぶる小泉の作品は、国や文化背景の違いを問わず鑑賞者に強いインパクトを与える。そのことは「第 15 回アジアン・アート・ビエンナーレ・バングラデシュ」(2013)グランド・プライズ受賞や「Future Generation Art Prize」(2012)での People's Choice Award 受賞などでも実証されている。

3. 予算概要

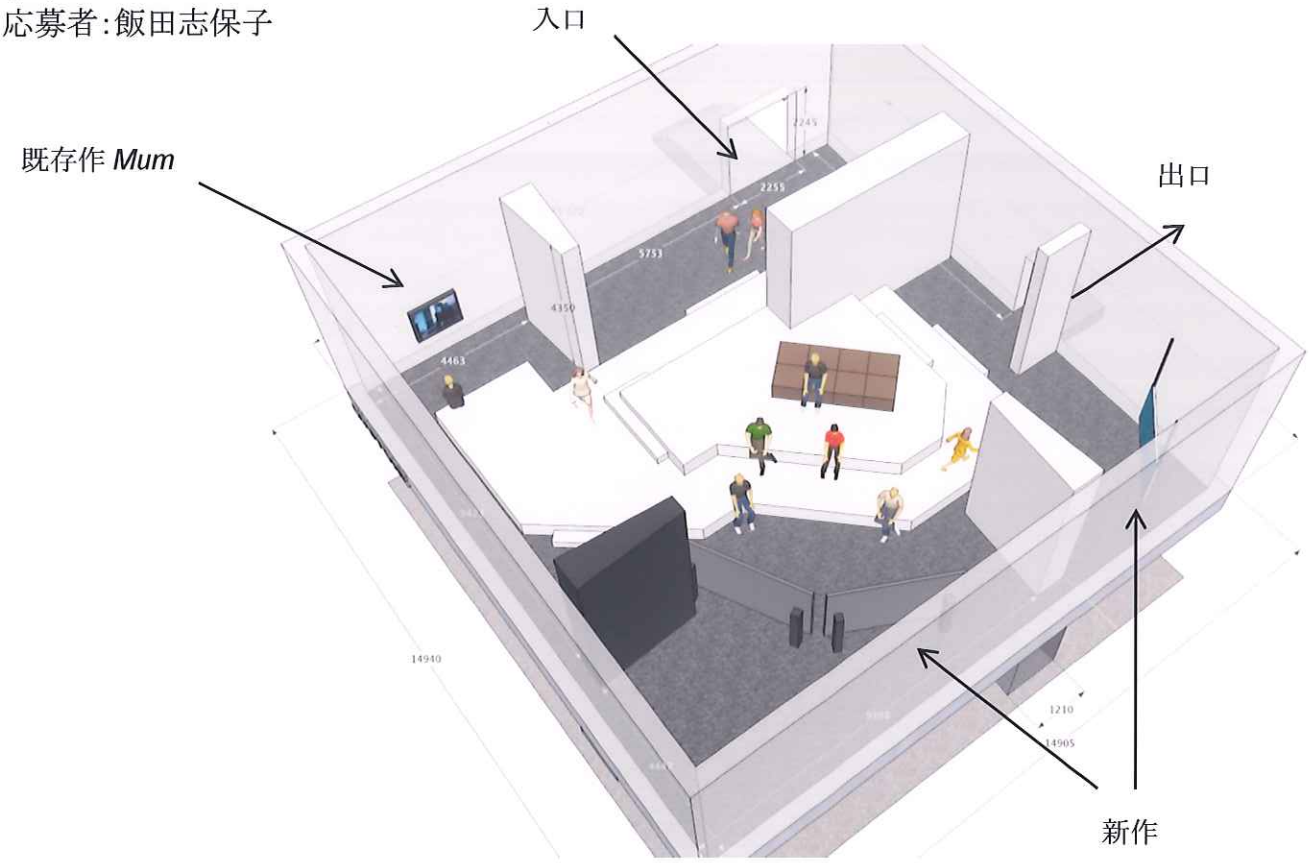
別添

第 56 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展　日本館　企画提案書
別添資料：展示イメージ図
作家名：小泉明郎
応募者：飯田志保子





第 56 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展　日本館　企画提案書
別添資料:展示イメージ図
作家名:小泉明郎
応募者:飯田志保子



第56回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展　日本館　企画提案書
別添資料：予算書（2014年3月28日現在）

作家名：小泉明郎
応募者：飯田志保子

		単価		人／数		日		回		¥	備考
謝金											
	小泉明郎	300,000	x	1			x	1	=	0	国際交流基金より謝金支払い
	テクニカル・スタッフ／アーキテクト	300,000	x	2			x	1	=	600,000	源泉込
	グラフィック・デザイナー（キャプション、看板、印刷	300,000	x	1			x	1	=	300,000	源泉込
小計										900,000	
制作費											
		4,000,000	x	1			x	1	=	4,000,000	源泉込
小計										4,000,000	
輸送費（保険込）											
	東京-ヴェネチア-東京	2,500,000	x	1	x		x	1	=	2,500,000	船便またはヨーロッパ内機材会社からリース（空輸）
小計										2,500,000	
音響映像機器レンタル（7ヶ月）											国内またはヨーロッパ内機材会社からリース
	プロジェクター		x	4			x	1	=		協賛検討
	モニター (4:3 / 40inch)		x	1			x	1	=		
	データプレイヤー		x	5			x	1	=		
	指向性スピーカー	250,000	x	3	セット		x	1	=	750,000	協賛検討または購入
小計										4,500,000	
会場施工・展示／撤去											仕様の詳細は見積りに応じて予算内で調整
	スクリーン（投影面塗り仕上げ｜w.2500mm程度）		x	4			x	1	=		
	木製ステージ（最上段はウレタン内蔵）	一式	x					1	=		
	吊り下げ天井	一式	x					1	=		
	床パンチカーペット敷き	一式	x								
	タイトル看板（もしくは切り文字）	一式	x					1	=		
	会場施工／展示作業員		x	一式				2	=		
小計										12,000,000	
旅費滞在費											
	名古屋-東京-名古屋	22,000	x	1	x	1	x	10	=	220,000	打ち合わせ時国内交通費（2014-2015）
	成田（中部）-ヴェネチア-成田（中部）	150,000	x	3	x		x	1	=	450,000	会場下見（2014）
	ホテル（シングル）	15,000	x	3	x	3	x	1	=	135,000	会場下見（2014）
	日当	4,200	x	3	x	4	x	1	=	50,400	会場下見（2014）
	成田（中部）-ヴェネチア-成田（中部）	200,000	x	4	x		x	1	=	800,000	展示、内覧会
	ホテル（シングル）	25,000	x	4	x	14	x	1		1,400,000	展示、内覧会
	日当	4,200	x	4	x	15	x	1	=	252,000	展示、内覧会
	成田-ヴェネチア-成田	150,000	x	1	x		x	1	=	150,000	撤去
	ホテル（シングル）	15,000	x	1	x	2	x	1	=	30,000	撤去
	日当	4,200	x	1	x	3	x	1	=	12,600	撤去
小計										3,500,000	
印刷物		一式	x	30,000	部				=	1,000,000	（2013年度参考：B1両面・手持ち用折加工・現地印
	原稿料	一式							=	100,000	
	翻訳料	一式							=	100,000	
小計										1,200,000	
運営費											
		一式								10,000,000	会期中（7ヶ月予定）監視員、警備員人件費、光熱費、清掃費用、現地コーディネーター委託費用
小計										10,000,000	
予備費										1,400,000	
支出合計										40,000,000	
収入合計										40,000,000	